

日本共産党議員団 服部 正平

改革みしま 土屋 利絵

三島市の将来課題を解決していくために

問 人件費を減らしながら市民サービスを充実させていくために、事務事業の精査や統合の実施を早急に進めながら、民間の力を最大限生かすべく、民間人材を市役所内部に組み込んでいくことが必要だと考えるが、見解を伺う。

答 民間の手法を取り入れるためには、明確なビジョンのもと、活用すべきフィールド、目的や目標をきちんと定め、組織体制を整備しないとうまく活用できない。兼業・副業などの雇用形態を含め、民間活力導入の効果の検証を進める中で可能性を研究していきたい。

子どもの命を守る街づくりについて

問 令和3年度より整備される三島市家庭総合支援拠点、虐待への対応を担う非常に大切な拠点となる。専門性の高い人材を配置していくことが求められるが、市の見解を伺う。

答 子ども家庭総合支援拠点に配置する職員には職務を適正に遂行できる能力が求められるため、社会福祉士や学校教諭などの有資格者である正規職員および会計年度任用職員の人員確保に努めることにも、県主催の研修参加によるスキルアップなどの機能強化を図る。

三島駅南口東街区再開発事業を広域健康医療拠点に

問 再開発事業内のマンションを、がんセンターなどと連携し、AIを活用した時代に先駆けた最先端の健康マンションとすることで、このあたり一帯の広域健康医療拠点にしていくことはできないか。

答 事業協力者からは先端技術を活用した健康づくりなど、将来的なまちづくりの提案もされている。先端技術を活用し、くらしに新たな価値やサービスを付加していくことは時代の潮流とも言えるので、ウエルネスフロントの実現に向け引き続き取り組んでいきたい。

法人市民税の減収分を補う「法人事業税」について

問 国が税制改正を行い、市の法人市民税が減収となる。その補填財源として「法人事業税交付金」を国は措置し、県から1億円が交付されるが、この交付額では不足となる場合もある。不足が生じた場合の対応について伺う。

答 地方交付税の原資とするため、法人市民税の税率が引き下げられたことから、令和2年度予算では、約1億2800万円の減収が見込まれる。減収分を補う措置である法人事業税交付金の額が1億円の見込みであるため、補填や返還は生じないものと考えている。

三島駅南口再開発は市の活性化に寄与するか

問 令和2年度予算において、事業計画作成費として準備組合への補助金と、経済波及効果調査を行う委託料があるが、導入施設などが確定していない段階での調査は意味がないと考える。なぜ予算に計上したのかを伺う。

答 都市計画決定後の事業進捗に伴い、施設計画の精度が高まることから、この段階で事業の効果の一つとして経済波及効果を算出することで、市民の皆さまに事業への理解を深めていただきたいとの考えによるものである。

公共交通の利便性向上利用拡大プロジェクト(PJ)

問 このPJは交通機関の効率的運行、利便性の向上と利用拡大を検討する場だが、路線空白地域が未だに残されている。このPJの取り組みにより、2021年までに空白地域の利便性をどのように向上させるのか。

答 市の地域公共交通網形成計画において、収支上の課題路線や空白地域をカバーする、せせらぎ号など市のバス運行事業のルート検討のほか、地域住民との協働体制と運行維持のためのルールづくりに取り組み、地域と共に利用促進に向けた機運を醸成していく。

佐藤 寛文

フォーラム三島

予算編成と財政運営

問 予算案において本市の市債は平成30年度決算より約15億円増え、過去最大の約403億円となり、市債は今後も増え続けていくという財政計画だが、市長の公約である市債増ゼロはすでにリセットされたのか伺う。

答 社会経済情勢の変化に伴い前倒して事業を実施したことに加え、東街区再開発事業等が控えていることから、市債残高は増加すると推計するが、市債返済額を表す指標は県内においても低い水準を保っており、今後も円滑な償還ができる財政運営を心掛けていく。

観光振興の推進

問 三島市は観光交流客数は増えているものの、観光客の消費額が少なく稼ぐ観光にはなっていない。そこで昨年度行われた観光動態調査を生かした観光振興、観光誘致に取り組むべきだと考えるが、新年度の取り組みについて伺う。

答 調査結果を踏まえ、首都圏の旅行会社への営業活動を通じて団体旅行の誘致をさらに進めている。また、今後5年間の戦略方針を定めた三島市インバウンド誘客戦略を基に、インバウンド情勢に柔軟に対応しながらさらなる誘客に努めたい。

「誰も置き去りにしない」まちの実現に向けて

問 平成31年3月、子どもの生活実態調査の結果が公表され、子どもの貧困はさまざまなかたちで現れていることが明らかになった。調査結果を踏まえて、子どもの貧困をなくすために新年度はどのような取り組みを考えているのか伺う。

答 三島市子どもの貧困対策推進計画に基づき、令和2年度には、学校や地域などを含めた社会全体で生活に困難を抱える家庭にいち早く気づき、適切な支援につなげることができるよう、子どもの貧困早期発見ガイドを作成する。

Q. 表紙の写真はどこでしょう

令和2年度みしま市議会だより表紙のテーマは、「三島の懐かしい風景」です。表紙の写真の場所は、どこかわかりますか？正解は三島大通り商店街です。明治末～大正初めに現在の大社町西交差点付近から広小路方面を撮影したものとわれています。



また、表紙の罫は三嶋柄と呼ばれる、三島茶碗や三島暦にルーツを持つ文様で、現在、三島商工会議所青年部の皆さんが、故郷に残された文化である「三嶋柄」を全国に発信しようと活動を行っています。

温故知新（古きをたずねて新しきを知る）というように、歴史を振り返ることから新たな発見を得ることがあります。

先人が大切にしてきたことにあらためて目を向けてみてはいかがでしょうか。

議会だより編集委員会一同